

令和 3年度 (2年度決算分) 高松市事務事業評価表 【事中・事後評価】

総合計画体系	まちづくりの目標	環瀬戸内海圏の中核都市としてふさわしいまち	評価担当	局名	都市整備局
	政策	快適で人にやさしい都市交通の形成		課(室)名	道路整備課
	施策	公共交通の利便性の向上		電話番号	087-839-2517
	基本事業	目指す都市構造と整合した都市交通システムの構築		事業実施主体	市
	事務事業	国道11号高松東道路関連整備事業		事業期間	平成28年度～平成33年度

【事業全体概要】

事業の概要	琴電高架化に伴う側道整備を行い、沿道環境の保全や地域の円滑な交通の確保を図る。			
3年度概要				
重点取組事業		市長マニフェスト		事務事業の類型

【事業の目的】

対象(何を)	事業対象施設：市道東山崎町51号線、太田下町21号線 事業対象者：道路利用者(歩行者・自転車利用者、自動車利用者)、道路沿道関係者
意図(どのような状態にしたいか)	沿道利用の促進、歩道整備による歩行者の安全確保及び鉄道(琴電長尾線水田駅)へのアクセス道路として、パーク&ライド、キス&ライド等公共交通利用の促進を図る。

【事業の活動】

活動指標名(具体的にどのような活動をしたか)	単位	H30	H31	R2	R3	中期目標 R4
単年度側道整備延長	m	918	1,053	1,098	1,098	1,098

【事業の成果】

成果指標	成果指標名(どのような成果が得られたか)	単位	種別	H30	H31	R2	R3	中期目標 R4
成果指標	側道整備率	%	目標値	93.62	97.06	100	100	100
			実績値	87.89	95.88	100		
成果指標	成果指標の達成度(目標に対してどれだけ達成できたか) 舗装工事を完了し、全線供用開始した。 (目標達成度)							
成果指標	成果指標の達成度(目標に対してどれだけ達成できたか) (目標達成度)							

【コストの推移】

指標名	単位	平成30年度(決算)	平成31年度(決算)	令和2年度(決算)	令和3年度(予算)
トータルコスト	[円]	11,440	42,877	12,813	8,230
(事業費)	[円]	3,122	34,530	4,583	
(職員人件費)	[円]	8,318	8,347	8,230	8,230

【評価】

評価ランク (A~D)	A	今後の方向性 (拡充、継続、改善継続、縮小、廃止)	完了
【昨年度の実施状況と課題】(評価ランクの結果に対する理由などを分析して記入) 舗装工事を完了し、全線供用開始した。			
【今後の事業方針】(評価ランクの結果を受けて、上記課題に向けた今後の方針を具体的に記入) 全線供用開始したため、特になし。			

令和 3年度（2年度決算分）高松市事務事業評価表 【事中・事後評価】

総合計画体系	まちづくりの目標	環瀬戸内海圏の中核都市としてふさわしいまち	評価担当	局名	都市整備局
	政策	快適で人にやさしい都市交通の形成		課(室)名	交通政策課
	施策	公共交通の利便性の向上		電話番号	087-839-2138
	基本事業	目指す都市構造と整合した都市交通システムの構築		事業実施主体	市
	事務事業	地域公共交通再編事業		事業期間	平成28年度～令和5年度

【事業全体概要】

事業の概要	持続可能な公共交通のネットワークの構築を目指すため、平成31年3月に改定した「高松市総合都市交通計画」の基本方針に沿って、30年度に改定した「地域公共交通網形成計画」及び「地域公共交通再編実施計画」に基づき、既存ストックを有効に活用し、新駅整備事業、複線化事業、バス路線網の再編等を推進する。検討に当たっては、学識経験者、交通事業者等で構成される「高松市総合都市交通計画推進協議会」を活用する。				
3年度概要	新駅（太田～仏生山駅間）駅舎整備事業（負担金）《市のみ》 新駅（三條～太田駅間）駅前広場整備事業（繰） 新駅（太田～仏生山駅間）駅前広場整備事業 ネットワークバス維持費補助金（3路線）				
重点取組事業	特別重点	市長マニフェスト	5-	事務事業の類型	ソフト事業（法律による実施義務無）

【事業の目的】

対象（何を）	鉄道・バス等の地域公共交通
意図（どのような状態にしたいか）	鉄道や幹線道路など既存ストックを有効活用し、新たな交通結節拠点を整備する。鉄道を基軸、バスをフィーダーとすることを基本とし、市全域を対象とした現行バス路線を再編することにより持続可能な公共交通ネットワークを形成する。

【事業の活動】

活動指標名（具体的にどのような活動をしたか）	単位	H30	H31	R2	R3	中期目標 R4
総合都市交通計画推進協議会開催回数	回	3	3	3	3	3

【事業の成果】

成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	H30	H31	R2	R3	中期目標 R4
施策に関する市民満足度（公共交通の利便性の向上）	%	目標値	23	24	25	28.1	25
		実績値	19.7	21.1	20.2		
成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか） 各種施策・事業の推進を通じた、公共交通の利用に対する機運の醸成等により、「公共交通の利便性の向上」に係る市民満足度については増加していたものの、令和2年の新型コロナウイルス感染症の影響により、公共交通の乗り控えが起きているものと考えられ、目標値の達成には至らなかった。		(目標達成度)					(達成度) 80.8%
							28点
成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	H30	H31	R2	R3	中期目標 R4
公共交通機関利用率	%	目標値	15.7	15.9	16	16.2	16
		実績値	15.2	15.3	11.5		
成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか） 当該指標は、平成19年度を基準年度とし、毎年度一定の利用者増を目標に掲げている。公共交通利用者は、平成20年代初期の一時的な減少から、近年増加傾向に転じていたものの、新型コロナウイルス感染症の影響により、前年度に比べて、1日当たり15,890人減少し、利用率も11.5%と目標の達成に至らなかった。		(目標達成度)					(達成度) 71.9%
							25点

【コストの推移】

指標名	単位	平成30年度（決算）	平成31年度（決算）	令和2年度（決算）	令和3年度（予算）
トータルコスト	[千円]	10,600	862,916	813,822	574,199
（事業費）	[千円]	4,550	827,404	797,511	554,895
（職員人件費）	[千円]	6,050	35,512	16,311	19,304

【評価】

評価ランク（A～D）	B	今後の方向性（拡充、継続、改善継続、縮小、廃止）	継続
------------	---	--------------------------	----

【昨年度の実施状況と課題】（評価ランクの結果に対する理由などを分析して記入）

総合都市交通計画において、コンパクト・プラス・ネットワークの考えの下、鉄道を基軸、バスをフィーダーとする持続可能な公共交通ネットワークの再構築に向けて取り組んでいる。ことでん琴平線沿線における2つの新駅整備に取り組み、令和2年11月に伏石駅（三條～太田駅間）が先行開業されたが、埋蔵文化財調査により工事の進捗に遅れが生じている。また、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う公共交通利用者の大幅な減少の状況下における、再編について、公共交通事業者との円滑な協議が必要となる。

【今後の事業方針】（評価ランクの結果を受けて、上記課題に向けた今後の方針を具体的に記入）

持続可能な公共交通ネットワークの再構築に向け、多様な機能を備えた結節拠点整備と併行し、関係機関との連携によりバス路線再編に向け改定した「地域公共交通再編実施計画」に基づき、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う公共交通利用者の大幅な減少の状況も鑑みつつ、大臣認定を取得し再編を進める。また、駅舎・駅前広場及び複線化事業については、引き続き、関係機関と調整を図り、駅前広場等の工事を進め、早期完成に取り組む。

令和 3年度（2年度決算分）高松市事務事業評価表 【事中・事後評価】

総合計画体系	まちづくりの目標	環瀬戸内海圏の中核都市としてふさわしいまち	評価担当	局名	都市整備局
	政策	快適で人にやさしい都市交通の形成		課(室)名	交通政策課
	施策	公共交通の利便性の向上		電話番号	087-839-2138
	基本事業	目指す都市構造と整合した都市交通システムの構築		事業実施主体	市
	事務事業	J R 端岡駅周辺整備事業		事業期間	平成 30年度～令和 5年度

【事業全体概要】

事業の概要	本市が目指す「コンパクト・プラス・ネットワーク」の考えの下、持続可能な公共交通ネットワークの構築を目指し、西部南地域の主要駅であるJR端岡駅の利便性の向上と交通結節拠点機能を強化するため、駅の本体機能や駅前広場・国道からのアクセス道路を全体パッケージとして整備を推進する。検討に当たっては、学識経験者、交通事業者等で構成される「高松市総合都市交通計画推進協議会」を活用する。				
3年度概要	関係機関との協議・調整				
重点取組事業	一般重点	市長マニフェスト	5-	事務事業の類型	インフラ・施設等整備

【事業の目的】

対象(何を)	鉄道・バス等の地域公共交通
意図(どのような状態にしたいか)	鉄道や幹線道路など既存ストックを有効活用し、新たな交通結節拠点を整備する。鉄道を基軸として、市全域を対象とした現行バス路線を再編することにより、持続可能な公共交通ネットワークを形成する。

【事業の活動】

活動指標名(具体的にどのような活動をしたか)	単位	H30	H31	R 2	R 3	中期目標 R 4
総合都市交通計画推進協議会開催回数	回	3	3	3	3	3

【事業の成果】

成果指標	成果指標名(どのような成果が得られたか)	単位	種別	H30	H31	R 2	R 3	中期目標 R 4
成果指標	公共交通機関利用率	%	目標値	15.7	15.9	16	16.2	16
			実績値	15.2	15.3	11.5		
成果指標	成果指標の達成度(目標に対してどれだけ達成できたか)	(目標達成度)						(達成度) 71.9%
								25点
成果指標	成果指標名(どのような成果が得られたか)	単位	種別	H30	H31	R 2	R 3	中期目標 R 4
	成果指標の達成度(目標に対してどれだけ達成できたか)	(目標達成度)						(達成度)

【コストの推移】

指標名	単位	平成 30年度(決算)	平成 31年度(決算)	令和 2年度(決算)	令和 3年度(予算)
トータルコスト	[円]	18,038	25,689	13,991	14,094
(事業費)	[円]	11,988	19,998	0	103
(職員人件費)	[円]	6,050	5,691	13,991	13,991

【評価】

評価ランク (A~D)	B	今後の方向性 (拡充、継続、改善継続、縮小、廃止)	継続
-------------	---	---------------------------	----

【昨年度の実施状況と課題】(評価ランクの結果に対する理由などを分析して記入)

基本計画(素案)に基づき、地元代表者へ現在の進捗状況について、説明を行った。一方で、関係事業者であるJR四国とは、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和元年度に取りまとめた基本計画(素案)に基づく、具体的な協議に至らなかった。JR四国は、新型コロナウイルス感染症に伴い、減収の見込であることから、両者の合意に基づく基本計画の策定にあたっては、国費を活用した事業スキームの確立が課題である。

【今後の事業方針】(評価ランクの結果を受けて、上記課題に向けた今後の方針を具体的に記入)

持続可能な公共交通ネットワーク構築に向け、取りまとめた基本計画(素案)に基づき、関係機関との合意形成を図る。あわせて、事業スキームを確立するため、国から補助が得られるよう、要望等を行っていく。